

図書館員のひみつの本棚 第 216 回

今月は、文がつながっていく楽しさを味わえる絵本を紹介します。

『これはすいへいせん』 谷川 俊太郎／ぶん tupera tupera／え 金の星社(2016年)
¥1500(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★★ 小低学年★★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

最初の場面で「これは すいへいせんの むこうから ながれてきた いえ」、次の場面で一文が加わり「これは すいへいせんの むこうから ながれてきた いえで ひるねしていた おじいさんの ガブリエル」と、次々に文が加わり最後には絵本全体が一文で表される、面白い構成になっています。また、登場人物同士の関係性などが、一文加わるごとにわかっていき、絵本の中の人と人とのつながりの楽しさ、ひいては現実の人間関係のつながりの面白さも想像させてくれる作品です。

<子どもに手渡す時のポイント>

幼児へは読み聞かせてあげることで、文が加わっていく楽しさをつたえられ、さらに、小学校低学年以上なら自分で読むことで、声に出すことの楽しさも感じてもらえます。また、登場人物が読んでいる絵本の作者が、のちにでてくる登場人物と同じ名前だったり、絵や装丁にも工夫が凝らしてあるので、そのような点を探して楽しむこともできます。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。